

## 第二回こころの科学特別レクチャー

こころの謎 ～文化、社会、感情、脳の密接な関係～

今回のこころの科学特別レクチャーはいかがでしたか？ ご感想をお聞かせ下さい。

・最先端の研究に触れられただけではなく、3人の先生方のやりとりから、論文を読んだだけではつかみづらい、研究のモチベーションやこころをどう捉えているか（「適応」や「一人称、三人称での心」）について知れたのが非常に興味深かった。

・著名な先生方が自分の最先端の研究を紹介して下さるということで、端的な知識だけでなく、科学者が知識を生み出す過程の喜びや苦しみといった物が垣間見られて、研究者になろうか迷っている自分にとっては非常に刺激になった。また、先生方の間のやりとりも面白かった。

・それぞれ違った分野で、第一線で活躍しておられる先生方のお話を一度に聞くことができる機会はなかなかないので、参加させていただけてとてもよかったです。また、トークの間でかわされる議論も多角的な視点からのなされるものばかりだったので、普段と違った考え方に触れることができとても刺激的でした。

・自分の専門分野ではなかったのですが、講師のみなさんの思考法や方法論、またその違いなどもわかって興味深かったです。複数の先生が会話をはさみながら講義を進めるシステムの良さがわかりました。

・先生方の講義や討論についていけないところもありましたが、そういう面も含め、勉強になる時間でした。北山先生のお話は、心理学者の方がはっきりと日本の現状についても申すということが個人的にはとても新鮮であり、文化を専門にされているからこそその視点なのかなと思い、面白かったです。そもそも「こころ」とは何かという議論から、最新の研究の動向や方法論まで幅広い内容を学べ、参加してよかったです。

・先生方の議論はたいへん興味深いのはもちろん、先生同士のディスカッションは着眼点や考え方がとても勉強になり、また、そのディスカッションによってきている私もどんどん掘り下げて理解できたので、おもしろかったです。同調や関係性や協調・独立の問題など、興味深い問題をどう実験におとしこんで、さらにその結果からどういったことが言えるのかということを経験してよかったです。

・著名な先生方が行われている進行形の研究に関する話を聞いてよかったです。また、先生方のディスカッションを聞いていて、理解力や知識量の多さなどすごいと感じました。自分のレベルをあげたいと思いました。僕の理解力の低さもあるかも知れませんが、内容や英語の語彙など、心理学を知らないもしくは勉強し始めた学生にとっては難しかったのではないのでしょうか。勉強になりました。ありがとうございました。

・3日間 10:00~17:00 と結構ハードな授業でしたが、著名な先生方と直接コミュニケーションをとることができるとても良い機会でした。また、意欲のある他の学生（他学部・他大まで！）の方たちとも交流出来て、勉強に対するモチベーションがグンと上がりました。

講義内容は難しく正直半分くらいしか理解できませんでしたが、抽象的に見えるトピックも科学的実験におとしこんで検証がなされていることに驚きました。

・3人の先生方が3日間（しかも長時間）在席されて討論を行うという、大変貴重な場に参加できたことを光栄に思います。先生方の講義はどれも具体的、かつ理論的で、かなり刺激を受けたが、もう少し **discussion** がオープンに行えたら、より意義のあるレクチャーになったのでは…と思います。何度か言いたい聞きたいことがあったけれど、言えなかった事があったので。トピックごとに **discussion** の機会があったのは、とても良かったと思います。それぞれの先生が持たれている研究スタンスや視点などが明確に分かって、とても興味深く思いました。自身の研究室に戻って共有したいと思える知見が得られて、とても満足しています。

・各分野の先生の興味領域もわかり、またそれぞれの理論を実証していくための具体的実験パラダイムを見せていただき、自分の研究への刺激になりました。先生方の難しい議論の場に居ることで、いい正統的周辺参加ができたと思います。

・それぞれ専門分野の違う先生方が講義議論しているのが面白かったです。講義、ディスカッションともに、専門的についていけないところが多々ありましたが、学部生向けだからといって変に話のレベルを落とさないところが、普通の学部の授業とは違い、色々なものを得た貴重な体験ができたと思います。（院生研究者の方が多かったからかもしれませんが）3人の先生の議論の展開の早さにはびっくりしました。自分が意見をいうときはものすごく考えて、よしこれでいいなとなるまで時間がかかってしまうので…。グループディスカッションをしてもいいかなと思いました。（しゃべりやすそう）

・心理学については初学者であり、専門的な部分（とくに実験に関する用語など）はよくわからなかったのですが、それでも、3人の先生方による様々な視点からの「こころ」の研究はとてもおもしろかったです。先生方のお話を3日間集中的にお聞きする中で「こころ」の問題は、いろんな学問と密接に関連しており、興味深いものだなあと感じました。

・脳がガンガンと揺さぶられるような、非常に興味深く刺激的な講義でした。濃密かつ充実した3日間だったと思います。ただ、少し教授たちの話が白熱しすぎて質問したいのにできなかった、という場面もあり、そこのバランスが難しいなあと感じました。議論自体は非常に面白かったので。いずれにしても、学問的なことだけでなく、学問に対する姿勢や想いというものまでなんとなく触れられたのはとても貴重な経験でした。是非またこのようなレクチャーを開いて頂きたいです。

・著名な心理学者でいらっしゃる3人の先生方のお話を伺い、まず、研究者の特に心理学を見たときの態度が様々であり、その一つ一つを垣間見ることが出来たことは非常に有意義な事でした。内容に関していえば、心理学初学者の私自身としては、言葉の操作的な定義や概念が非常に難解でありましたので、少し壁を感じましたが、それでも非常に興味深かったです。これから応用科学としての医学研究の中に心理学のエッセンスをいかにまぜるかを考え、研究していきたいと思えます。ありがとうございました。

・ **imaging** の **data** はどう解釈されるのか：機器のくせや、切り取る時点の設定や、まったくもって緻密な解釈と知識がいろいろな示唆を与えうるかを垣間見た。行為を切り取って記述するのは難しいけれども、**data** があって、何がわかるのか、解釈が先にあるかそれをあてはめているのか、話の面白さとは独立して、注意しなければならないと思った。議論はこういうふうに展開するのか、発想はここからくるのか、など非常におもしろかった。

・ たのしかったです。学部生には難しいのでは？と最初思ったのですが実際は全然問題ないように見えました。面白い研究の話はだれにとっても面白いんだなあと思いました。それぞれの先生方がどういうアプローチを選んで研究をすすめようと思ったか、というちょっとメタ的なお話を下さったのも、大変興味深かったです。

・ このレクチャーはすべて興味深く、特に 3 つの異なった視点からのディスカッションがよかったです。そしてそれぞれの教授のレクチャーに対しての返答、お互いの意見を深く考えている姿も素晴らしかったです。私自身、教授方から色々学び、このイベントに参加できたことは光栄でした。

・ 心にまつわる理解、心に挑む自分への課題（混乱） 実験法：**simple**→実際の状況を本  
当に表しているのかが疑問 ←ジレンマ→**complex** いろいろな要素（文化、性格）を測る  
→実験自体がしにくい、できにくい。客観性（解釈）サンプル数の問題、神経科学実験を  
行う理由